

<金標準、金市場への見直しから資金回帰で 24000 円へ・・・>



(出所：オアシス)

雇用統計に続き、消費者物価指数（CPI）が前月比で 0.1 増%、コア前年比でも 2.5%と前月の 2.6%を下回り、また小売売上高は前月比で 0.6%減となり、ミシガン大消費者信頼感指数でも前月の 55.2 から 51 まで低下している。そのため 9 月の FOMC で利上げ確率が 50%から 30%まで低下し、市場が予想する年末の FF レート誘導目標(政策金利)は現行の 3.50%～3.75%から 1 回（0.25%）の利上げにも満たない 3.84%まで低下するなど、利上げ確率の後退で貴金属価格は下値を支える値動きに結び付いている。また中国金協会が発表した金の需給のレポートによると、2026 年上半期、中国の地金・金貨需要は前年同期比 28.4%増の 339.3 トンとなる一方、宝飾品需要は 33.9%減の 132.1 トンまで落ち込み、投資用の地金・金貨需要は宝飾品需要の 2.5 倍に達している。また金 ETF 最大銘柄の SPDR Gold Shares の残高は 5.71 トン増の 1,023.243 トンと増加しており、金市場へ資金が回帰する動きを見せるなど目先の下値を確認した値動きに思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足の MACD では、MACD が上昇し、シグナルも上昇している。RCI は短期が維持し、長期も上昇している。特に指数平滑移動平均線のレンジを日足が上回り、23000 円を上回ったことから 24000 円へ向けた戻り基調に思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 5,175,000 円(2026 年 8 月 17 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 5 倍から 50 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 97,680 円(2026 年 8 月 17 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>